

進路通信 No.2

<3月には卒業！今のうちに知っておきたい卒業後の道>

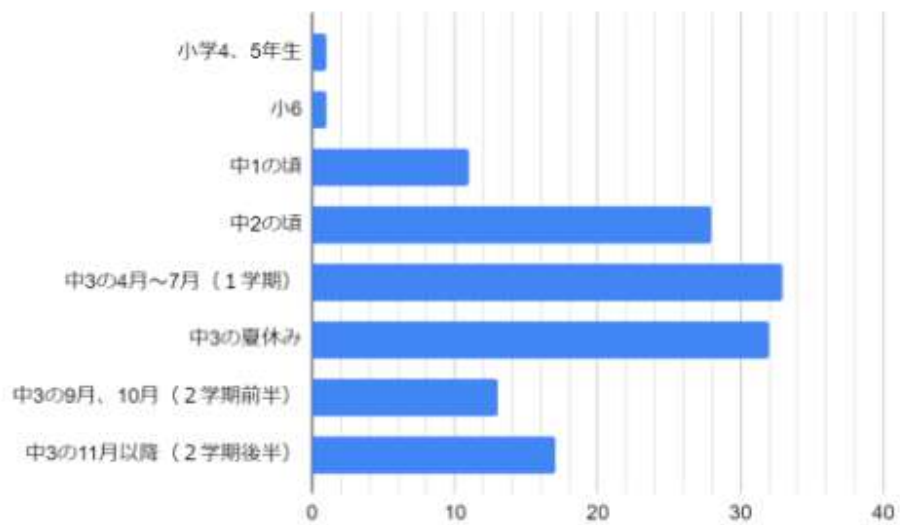


もう5月か…。でもまあ、進路を考えるにはまだ早いよね!!

そんなことないで!!昨年度に卒業した先輩も「早くから考えておけば良かった」と振り返っている人が多かったで～



いつ頃から進路や志望校を探し始めましたか？



のんびりしてるうちに卒業は迫ってくるよ。高校に向けて段取り組んで徹底的に仕上げないと高校の選択肢減るし試験間際にバタバタするのは自分。後々のこと考えて行動しな。

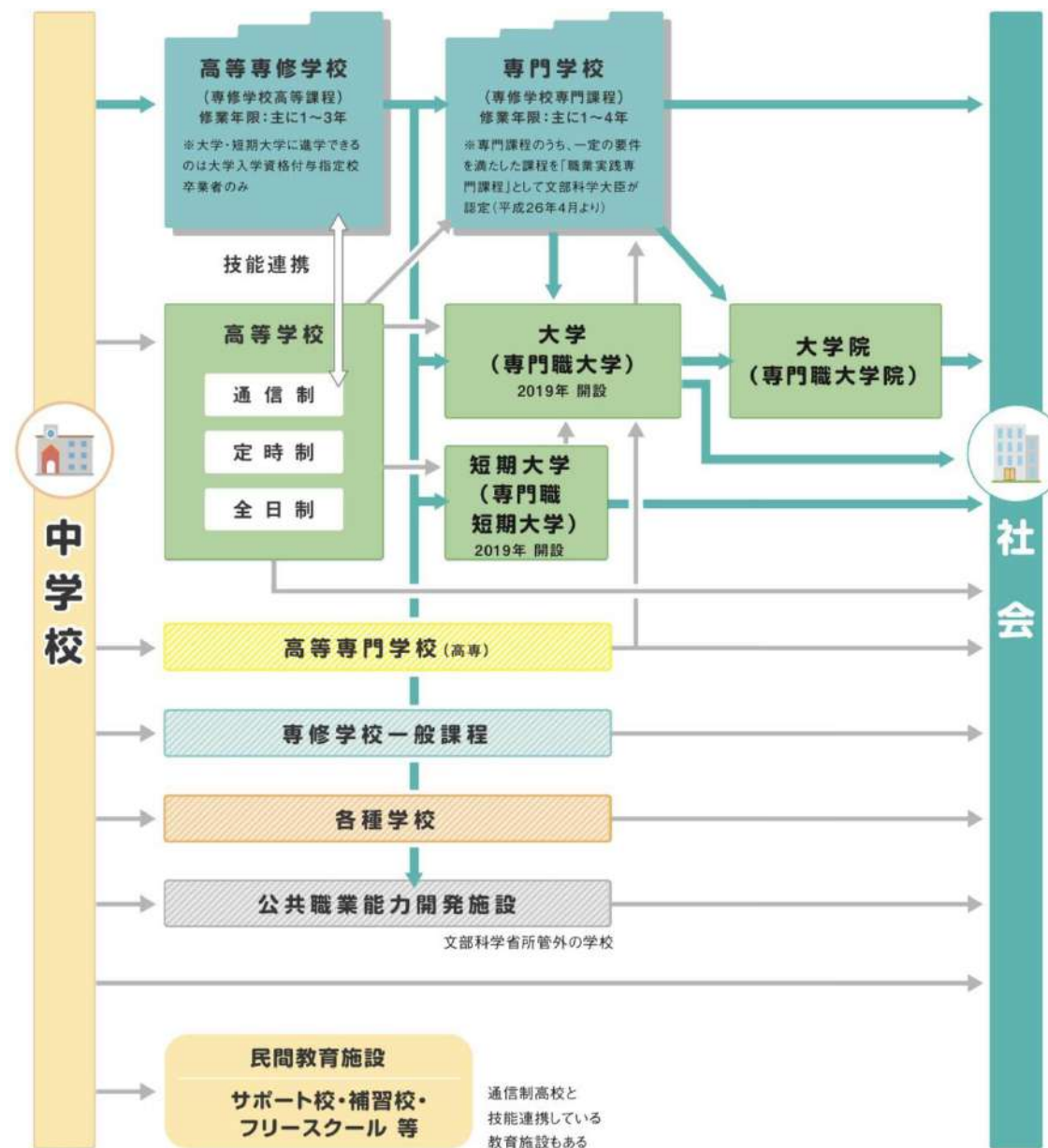
卒業生のAさん

『卒業後にどのような道に進むのか?』を、この1年間をかけて決めます。しかし、卒業後にどんな道が広がっているのかを知っているのと知らないのとでは、選択する幅が大きく変わります。

そこで今回は、卒業後にどのような道が広がっているのかを取り上げます。下記に当てはまる人はぜひ最後まで読んでみてください^^

こんな人に読んで欲しい！

- 進路について真剣に考えていて、もっと情報がほしい人
- 2年生の進路学習では理解しきれなかった人
- 中学校卒業後にどんな道があるのかわからない人



画像出典:文部科学省 | 未来をひらく高等専修学校 | 中学生の進路チャート

① 高等学校

目的: 中学校での基礎の上に、心や身体の発達、将来の進路に応じて、高度な一般教育と専門教育を行うことです。

目標: 以下の3つが挙げられます。

- (1) 普通教育の成果を発展させ、豊かな人間性や創造性、健康な身体を育み、**国や社会を形成するために必要な資質を育成**すること。
- (2) **社会で果たすべき使命を自覚**し、個々の個性に応じて**将来の進路を決める能力を育み、一般的な知識や教養を高め、専門的な知識や技術を身につける**こと。
- (3) 個々の個性を確立し、広く深い社会の理解や健全な批判力を養い、**社会の発展に貢献する態度を育む**こと。

つまり、中学校の内容を発展させる・社会を作っていく能力をさらに伸ばす・専門性も磨いて将来の進路実現に向けて学ぶ場やな～^^



② 高等専門学校

目的: 専門的な学問を教えて、職業に必要なスキルや能力を育てることです。

目標: 以下の2つが挙げられます。

- (1) 成果を社会に広く役立てることで、**社会の成長に貢献**すること。
- (2) 専門的な学びを通じて、**将来の仕事や社会に必要な能力を身につけ、社会の発展に貢献**すること。

つまり、将来、技術者として働く上で必要な能力や世界に通用する技術を身につけて、社会の発展に貢献できるよう学ぶ場やな～^^



③ 高等専修学校（専修学校高等課程）

目的: 職業や日常生活に必要な能力を育てることや、教養を向上させることです。

『高等専修学校(専修学校高等課程)』は、中学校を卒業した人を対象としています。

目標: 中学校で学んだ基礎をしっかりと理解した上で、**専門的な技術や知識を学ぶための基礎を育成**すること。

特徴: 以下の2つが挙げられます。

- (1) **座学と実習がバランスよく組み合わせられており、職業や教養としての教育が提供される。**
- (2) 3年以上の高等課程を修了し、授業時間や科目などの**要件を満たすと**、文部科学大臣によって指定された課程を修了したことで、高校を卒業した人と同じく、**大学に進学する資格を得ることができます。**

つまり、職業や生活に必要な能力を身につける場やな～^^
高等課程は中学校卒業以上の方が学ぶ場！
基礎的な学習や専門的な技術の習得が行われるで～！



④ 専修学校一般課程

目的: 職業や日常生活に必要な能力を育てることや、教養を向上させることです。

『専修学校一般課程』は、特別な入学資格や年齢制限はなく、誰でも自由に専門的な知識や技術を学ぶことができます。一般課程は、将来の生涯学習社会に向けて非常に重要で、期待される課程となっています。

つまり、実用的なスキルや知識を身につける場やな～^^
一般課程は特に制限がなく、興味や目標に応じて学べるで～！
これは、将来の可能性を広げるためにとっても大切なことやな！



⑤ 各種学校

『幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校』以外で、学校教育に類似した教育を行う施設のこと。

各種学校は、『上記の学校』と比べてカリキュラムの自由度が高く、大学レベルの教育を提供する学校もあります。ただし、職業訓練など他の法律で規定されている教育は各種学校では行うことができません。専修学校とは異なる教育施設です。

つまり、『高等学校卒業』や『高等専修学校卒業』という卒業資格は得られないけど、学べることの幅が大きいんやで～^^



⑥ 公共職業能力開発施設

国や都道府県、市町村が設置する施設で、職業訓練を行うために使われます。

公共職業能力開発施設には以下の5種類があります。

- (1)職業能力開発校
- (2)職業能力開発大学校
- (3)職業能力開発短期大学校
- (4)職業能力開発促進センター
- (5)障害者職業能力開発校

(1)職業能力開発校

大阪府では、**新規学校卒業者や求職中の方に、職業に必要な知識や技能を身につけ、就職に役立てていただくため**、府内に4校の高等職業技術専門学校(ぎせんこう)を設置するとともに、国立の障害者職業能力開発校を運営しています。

高等職業技術専門学校・大阪障害者職業能力開発校は**実践力重視の授業と豊富な経験に基づく就職サポートで、プロフェッショナルをめざす**大阪府立の職業能力開発校です。

(2)(3)職業能力開発大学校・職業能力開発短期大学校

近畿職業能力開発大学校(愛称:近畿ポリテクカレッジ)は、職業能力開発促進法に基づき設立された大阪府岸和田市にある職業能力開発大学校である。**専門課程は高校を卒業した後の2年間の課程**で、短大もしくは四年制大学の1～2年次に相当するものです。**応用課程は専門課程を修了した後に進学する2年間の課程で、製造現場のリーダーを養成することを目的にしています**。四年制大学の3～4年次に相当するものです。専門課程修了時に短大卒相当として就職することと、応用課程に進んで四年制大学相当として就職することを選択できます。

(4)職業能力開発促進センター

ポリテクセンター関西は厚生労働省が所管する独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が職業能力開発促進法により運営する公共職業訓練施設です。

事業主、事業主団体等がスムーズに人材育成・教育訓練を行えるようなサポートなど、あらゆる面から教育訓練をバックアップしています。

(5)障害者職業能力開発校

大阪障害者職業能力開発校は、職業能力開発促進法に基づき、**障がい者が就職に必要な技術・知識を習得して職業的に自立し、生活の安定と地位向上をはかることを目的**として国が設置し、大阪府が運営する施設です。障がいのある方々が職業に必要な技能と知識を習得して、職業的自立を図ることを目的としています。現在、障がいの種別を問わない科目が4科目、知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者対象科目が各1科目の合計7科目を設置し、就職をめざして技能習得に励んでいます。

つまり、様々な人が将来の職業に必要なスキルや知識を身につけたり、キャリアアップや専門スキルを向上させたりする目的で学ぶ場やな^^



まとめ

今回は今のうちに知っておきたい卒業後の道について解説しました。

ポイント

- ① 社会に出るまでにいろいろな道が広がっている!
- ② 社会に出てからも学べる場はある!

『自分が知っている学校』以外にもたくさんの学びの場があることを知ることで、**選択の幅が広がります**。また、**たくさんある選択肢の中から自分で選んで進んだという経験**は、『**自分自身で人生を歩んでいるんだなあ～**』という実感を得ることに繋がります。



自分が知っているのは、ほんの少しかったということが今回の内容を通してわかって良かったよ!

それぞれの学校については、また進路通信で紹介するからぜひ見てな～^^



最後に、世界的に有名な元プロ野球選手のイチロー選手の名言で締めくりたいと思います。

自分自身が何をしたいのかを、忘れてはいけません。